



2019年12月1日発行
(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可
発行所/(公財)熊本YMCA
〒860-8739
熊本市中央区新町1-3-8
Tel 096-353-6397(代)



在日大韓キリスト教会熊本教会 牧師 キム・ソンヒョ
熊本YMCA東部運営委員 金聖孝さん

宗教教誨師として

在日大韓キリスト教会(KCCJ)熊本教会は、熊本市を流れる白川のほとり、中央区本山にあります。設立は1951(昭和26)年。5代目の牧師を務めるのは金聖孝さん。熊本YMCAでのボランティア会員歴は27年に及びます。「挫折ばかりでしたよ」と人生を振り返る金さんは在日コリアン2世。大きな体と優しい語り口が聞き手を包み込んでいきます。「戦争直後、比較的食糧事情がよいと言われた熊本市に移り住んだ在日コリアンが多かったと聞いています。多くは現在の中央区河原町で繊維業を営んで生計を立てていたそうです」。熊本教会はそんな河原町の店舗兼住居の2階から始まりました。

金さんは今年、14年に及ぶ熊本刑務所での宗教教誨師としての功績が認められ、福岡矯正管区から表彰されました。被収容者と1対1の個人教誨と、15人の被収容者と話をするグループ教誨を行っています。「聖書の一節を現代社会や人生になぞらえて話をします。こんなに真剣に僕の話聞いてくれる人たちは他にはいませんね。無期懲役刑に服している被収容者も多い。多くは殺人を犯した人たちです。刑務所での生活は時間に厳しい。みんな一生懸命生きていますよ」。殺人などの凶悪事件に対し、被害者や被害者遺族の境遇に共感し、厳罰化を望む声もある中、罪を犯した人々に寄り添う理由について

「生きててよかった」と思える社会へ

尋ねました。「相手の方の命の分も生きていってほしいという気持ちですね。僕はそれを応援する友です。もしも仮釈放がかない社会に戻ることになったら、人や社会に喜ばれるような生き方をすることで、殺めてしまった人の命を生きることになるのではないのでしょうか」。

差別や偏見に負け続けた

在日1世の両親のもとに大阪で生まれた金さん。物心ついた時から日本で暮らすには在日であることを隠し続けなければならないと考えて育ちました。かつて使った通名は「かねもと きよたか金本聖孝」。体が大きく、活発で学校では人気者だった小学4年生の金さんに忘れられない出来事が起きました。ある日、休み時間が終わって教室に戻った金さんの目に「金本はチョーセン」と黒板に書かれた大きな文字が飛び込んできたのです。「足ががくがく震え、何も聞こえなくなりました。その日からクラスメイトは全員僕のことを無視。4年生の最後まで続けました。地獄でしたね。在日コリアンとして自立する兄の背中を見て自分のアイデンティティに悩み、オモニ(韓国語で『母』)に『高校は通名ではなくて本名で通いたい』と気持ちを伝えましたが、泣きながらやめてくれと懇願されました。高校の卒業式で「今度こそは本名で呼んでもらおう」と思ったものの、どうしても踏み切れなかった自分との葛藤。かつては結婚を約束した人がいましたが、相手の親が、「朝鮮人と結婚するくらいなら」と自殺未遂をしたことで破談に。「僕はこうやってずっと差別や偏見に負け続けてきたんです」。

本名「金聖孝」として生きる

共に生きることの温かさを実感したのは、20歳でKCCJの青年会に加わってから。自分に課せられた課題と一緒に向き合う仲間を得たことが金さんの生きる原動力になっていきます。24歳になって、本名「金聖孝」と名乗ることを決めました。「あの日以来、僕はずっと金聖孝。在日は日本人ではないし、本国の韓国人らしさを追いかけて続けるのも違う。その両方を楽しめる、そんな僕たちでいいんじゃないか、今はそういう風に考えています。日韓関係が悪化し、ヘイトスピーチは身の危険すら感じるほど先鋭化しています。韓国に行っても異質な存在として見られることがあります。でも、僕たちが在日も多様な存在として尊重されるべきです」。

金さんはYMCA東部センターの運営委員として活動を続けています。「ボランティアも学生も職員もみんな協力し合うYMCAって僕にとってすごく居心地がいい場所なんです。こないだラグビーワールドカップ、盛り上がったでしょ。いろんな国籍・ルーツの人々が協力して歴史を作った。どこかYMCAに通じるものがあるんですよね。そんな社会で一人ひとりが『生きててよかった』と思えるような手伝いをすることが金聖孝としての僕のライフワークなんです」。



熊本地震後に御船町スポーツセンターで行ったボランティア

Pickup

体操フェスティバル特集

きれいに跳べるよ!



遠くまでジャンプ!

かっこよく
決まってるでしょ



Information 行こう 見よう 深めよう

2019年12月・2020年1月

楽しみながら社会貢献 YMCAチャリティープログラム

交流
×
チャリティー

各センターでチャリティープログラムを開催します。益金はYMCA募金に充てられます。参加費・実施時間の詳細は、お問合せください。

中央センター

今年はクリスマス会と同時開催。お友だち、リーダーとクリスマスを楽しみお祝いしよう!

回 2019年12月14日(土) 16:00~17:30 場 中央センター(熊本市中央区新町) 内容 クリスマス礼拝、クラフト、お楽しみプログラム 費 500円/1名 定員 40家族程度 対象 2歳児~小学生の在籍生及びご家族、お友だち 備考 幼児のお子様は保護者同伴 問 Tel 096-353-6391

みなみセンター

カヌーでミニミニ大航海など毎年好評なプログラムの他、初開催の親子バランスボール、親子ハンドマッサージ講座など盛りだくさんの内容です。

回 2020年1月19日(日) 場 みなみセンター(熊本市南区田迎) 内容 スポーツ体験、バザー、恐竜キーホルダー作り、親子プログラム、だんご汁販売など 問 Tel 096-378-9370

ながみねファミリーセンター

食バザーやゲームなど、大人も子どもも楽しみながら募金に参加できる1週間です。

回 2020年1月18日(土)~24日(金) 場 ながみねファミリーセンター(熊本市東区) 内容 くじびき、ストラックアウト、ガレージセール。1月18日(土)のみ、ポップコーン、ライン工房クッキー、コーヒー、型抜きを販売します。 問 不要 問 Tel 096-385-0676

むさしセンター

大人気の逆上がり教室を今年も開催します。他にも親子で一緒に楽しく体験できるイベントがあります。

回 2020年1月19日(日) 場 むさしセンター(合志市幾久富) 内容 逆上がり教室、プール開放、水泳苦手克服レッスン、サッカー交流試合、成人プログラム 問 電話または窓口にて予約受付 問 Tel 096-248-6334



1月18日 Saturday

YMCA学院児童福祉教育科 卒業発表会

学び
×
発表

YMCA学院の児童福祉教育科では、保育者を目指す学生たちがともに学び合いながら3年間を過ごしています。2019年度に卒業する21期生の学びの集大成となる「卒業発表会」を開催します。今年のテーマは「パズル」。パズルのようにいろいろな個性がある学生たちが、企画から運営まで、クラス一丸となって取り組みます。創作劇やダンス、合唱など、子どもたちも楽しめる会です。家族そろってお楽しみください。

回 2020年1月18日(土) 13:00開場
13:30開演
場 熊本市国際交流会館7階
内容 創作劇、ダンス、合唱
費 無料
問 YMCA学院 Tel 096-353-6393



昨年度の様子

1月25日・29日・30日

熊本バンド144周年記念行事

講演会
×
祈禱会

熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受け、花岡山でキリスト教を奉じこの教えを日本全国に宣布しようと誓約した「熊本バンド」の青年たち。

日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった「熊本バンド」の結盟144周年を記念して、講演会と早天祈禱会を開催します。

講演会

回 2020年1月29日(水) 18:30~20:00 場 熊本草葉町教会

テーマ 同志社の国際主義—原田助と新島襄の『愛人主義』

講師 横井和彦さん(同志社大学経済学部教授、キリスト教文化センター所長、同志社小学校校長、学校法人同志社理事・評議員)

※駐車場はありません。お車で越越しの場合は、近隣のコインパーキングをご利用ください。

早天祈禱会

回 2020年1月30日(木) 6:30~7:30

場 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前

テーマ 新島襄の志と徳富蘇峰 奨励 横井和彦さん

※駐車場有



ボランティアデー

早天祈禱会を前に、熊本バンドゆかりの地である花岡山に集い、清掃活動を行います。※雨天中止

回 2020年1月25日(土) 9:30~

場 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前

問 熊本バンド144周年記念行事実行委員会事務局(熊本YMCA) Tel 096-353-6391



R | E | P | O | R | T

[11月2日⇒ 11月16日]

キャンプ YMCAキャンプ100年 記念シンポジウムを開催

2020年にYMCAキャンプが100周年を迎えるにあたり、11月2日(土)～3日(日)、記念シンポジウムを阿蘇キャンプで開催。全国より野外活動関係者やYMCAスタッフ、ユースリーダー総勢50名が参加しました。

1日目は、「キャンプの可能性」をテーマに、文教大学准教授の青山鉄兵さんによる基調講演が行われました。また、「One Camp」「保養キャンプ」「ボランティアセンターとキャンプ」をテーマに、3名から発題があり、その後、活発な意見交換が行

われました。夜はキャンプソングの集いを行い、大いに盛り上がりました。2日目は、グループに分かれ、震災フィールドワークや地域の婦人会協働の野外料理、ネイチャーゲームや阿蘇の草原体験プログラムとして、草泊まりの制作を行いました。

阿蘇の地で共に学びを深め、語り合う時間を持つことができ、多くの成果が得られました。今回の成果を、来年の2020キャンプ100年記念や、これからの100年につないでいきたいと思います。
職員 本田奈緒子



国際 ユースから学ぶ日韓交流 熊本・大邱YMCA役員協議会

熊本YMCAと韓国大邱YMCAのボランティア会員や職員が参加し、毎年開催している役員協議会。今年は11月8日(金)～10日(日)の日程で熊本を会場に行われました。

今回も昨年に引き続きユースが主体となり「ユースから学ぶ日韓交流」をテーマに、より具体的な提案がなされました。参加した両国のユースは、この夏広島で行われた国際青少年平和セミナーや大邱で行われた日韓青少年交流で顔を合わせており、再会を大変喜んでいました。熊本の

学生からは、「大人を交えた協議は、いい経験になった」「発表で力不足を痛感したので今後さらに努力をしていきたい」「韓国の委員と一緒にユースの活動について話し合いができて有意義だった。来年も今年以上にいい活動にしたい」などの感想が寄せられました。両国の役員からは、「若い世代の交流によりお互いの理解が深まり平和に歩み寄りができる」という意見が出され、冷え込んでいた日韓関係を修復するには、ユースの力が必要であることを実感しました。
職員 大宅登貴子



キリスト教 ジェンダー平等にむけて 合同祈禱会で講演

YMCAとYWCAが共に祈りをささげる世界YMCA/YWCA合同祈禱週。今年は11月10日(日)～16日(土)で、テーマは「ジェンダー平等にむけて、若者が権力構造を変革する」でした。最終日の16日(土)に、中央センターで熊本YMCAと熊本YWCAの合同祈禱会が開催されました。

今年は、阿蘇ワイズメンズクラブのメンバーであり、阿蘇ひまわり基金法律事務所弁護士の森あいさんが、「私たちが変える ジェンダー平等」と題して講演。森さんは同性婚の裁判に取り組まれてお

り、具体的な判例などを示しながら、LGBTの人々の直面する課題について「今当たり前であることも昔は当たり前でなかったことを考えると、今課題になっていることも変えることができる。そのためには常に関心をもって動いていくことが大切です」と語りました。その後の懇談会では、出席者から「LGBTやジェンダーの課題がよくわかった」という感想や「YMCAとYWCAが協働して取り組んでいかなければならない」などの意見が出されました。
職員 日野充裕



岡総主事の タラント Vol.65



未来をひらく

クリスマスの季節がやってきました。イルミネーションやクリスマスツリーの点灯が華やかです。一方で、様々な災害にあわられて、生活に困窮し不安な毎日に希望を持たない人々がおられることを思うと、私たちは何か大切な価値を見失っているのではないかと思います。

今年の初め、縁あってYMCA史学会*で「熊本

YMCA70年の学び」をテーマに発題をさせていただき、私自身にとって改めて学びの機会となりました。熊本YMCA50年史には次のような記述があります。「『精神の貧困』は、隣人の痛みや悲しみへの共感を薄れさせ、他者とともに生きる謙虚さや思いやりの精神を欠くことにもつながるものであった。したがって、これを反省し、キリストが示す『愛』と『献身』の行為に生きることこそが、会員すべての理念であるボランティア活動の推進である...」。こうした生き方をこれまでの日本人の生き方と異なる「もう一つの生き方」として提唱し、1992年から現在に至るまで我々の中期計画に反映させています。また1995年には「熊本YMCAの使命」が策定され、苦しむ人々と共に生きるというわたした

ちのミッションが明らかにされました。

YMCAは会員組織を中心に据え運営されています。担い手はボランティアであり、市民社会の担い手であり、地球市民として果たすべき役割があります。YMCAを通して多くの賛同と共感の輪が広がることを願って、2020年から新たなボランティア運動が始まります。

“みつかる。つながる。よくなっていく。”

この会員運動が推進されることが地域社会の課題解決の一步であり、未来をひらくことになることを確信しています。

*YMCA史学会は日本におけるキリスト教青年運動としてのYMCAの歴史をふりかえりつつ、今後のあり方を考えることを目指した学会です。

t a l a n t o n

着ぐるみ工場の女子たちの挑戦 ～働くことをあきらめなくていい職場づくり～

10月18日(金)に開催されたYMCAフィランソロピ協会総会記念講演会の内容を抜粋してご紹介します。

着ぐるみ製作を行う宮崎県の会社で代表を務めています。日本全国や海外からもオーダーを受け、1体1体に命を吹き込みながら、年間約200体のキャラクターを生み出しています。熊本県おなじみのPRキャラクターも当社の出身です。

従業員は社員29名、パート7名。うち17名は子育て中のママスタッフです。設立直後は、長時間残業が当たり前の悪環境でした。社員の表情は暗くなり、ある日「残業続きで子どもに晩ごはんを作れず、お惣菜を買ってばかり。『お惣菜残業はもう嫌』」という言葉が。はっとして、会社を変える必要性を深く感じたのです。

2012年に法人化したこともあり、「人を幸せにする着ぐるみは、幸せな工場からしか生まれたい」と、私は変革に乗り出しました。社内アンケートや社員とのトークブレイクで、時間外労働の多さ、有休の取りづらさなど、いろんな課題があぶり出されました。「向こう側(お客様)の笑顔」と「こちら側(社員)の笑顔」両方を大事にするという目標を立て、「ノー残業デー」を設

け、有休の取りやすさにも努めました。徐々に仕事の効率化やスムーズな段取りが進み、現在はほぼ毎日がノー残業で、有休取得率も78.4%(2018年度)と高い数字をキープしています。改革に取り組んだ翌年、勤務時間が減った一方、経常利益は前年比270%に増加。職場環境の悪さが、実は経営まで圧迫していたことを、数字でも実感できる結果となりました。

さらに、アフター5を豊かに過ごしたい、もっと自由に働きたい、どこでも働きたい、などの声にも応え、副業解禁や出勤時間選択制、短時間正社員、テレワークなどにも取り組んでいます。「人が辞めない会社」をつくることで、離職率は下がり、当社の強みである技術の温存を図っています。若い子もママもベテランも、みんなが一緒に頑張っ一緒に帰れる職場、そしてたくさん赤ちゃんが生まれる会社、そんな会社を目指しています。

「働く」ことは会社に時間を拘束されるだけの場所ではなく「社会の中の自分の居場所」であるべきと思います。自分の存在価値を得て、生きがいを感じ、精神的な自由を得る。そんな職場づくりができてこそ、真の「ワークライフバランス」が実現できるのではないのでしょうか。



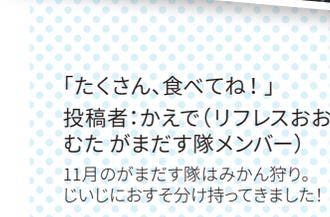
加納ひろみさん
KIGURUMI.BIZ株式会社
代表取締役

Snap

読者の皆さんから寄せられた写真を紹介します。



「楽しかったね、むさしフェスタ!」
投稿者:ポーターズ(スイミング保護者)
@むさしセンター
YMCA仲良し6人組!
お手伝い頑張りました!



「たくさん、食べてね!」
投稿者:かえで(リフレスおおむたがまだず隊メンバー)
11月のがまだず隊はみかん狩り。
じいじにおすそ分け持ってきました!

写真募集中

YMCAの活動の様子や思い出を写した写真を募集します。採用された方にはオリジナルノートをプレゼント!

応募はこちら▼



※画像サイズは横幅900pixel×縦幅600pixel程度以上(横長の場合)で著作権、肖像権を侵害するおそれのないものに限りです。

次号は1月・2月合併号として、1月中旬に発行予定です。

わたしと聖句

創世記1章27節

神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。

アドナイ(主なる神様)の御言葉

旧約聖書(ヘブライ語聖書)時代のヘブライ語には、「メリズモ(Merism)」と呼ばれる表現技法があります。これは、「対になる2つの単語を接続詞で結ぶこと」によって、該当の2つの単語とその間に存在するすべての存在を含んで表現する「表現技法」です。聖書において頻出するのは、「天と地」という表現です。「天と地」と「メリズモ」を用いて表現することにより、「天と地とその間に存在するすべての存在(ことがら)」この世界のありとあらゆる存在(ことがら)をあらわします。

この「メリズモ」を創世記1:27に適用すると、「男と女に創造された」という表現は、「アドナイが、男と女との間に存在する全てのグラデーションを創造された」とも解釈できます。

約2600年前に生きていたであろう創世記1:27を編んでいた者たちは、昨今のいわゆる「LGBT」に該当する方々への認識を持っていなかったことでしょう。創世記1:27を編んでいた者たちは「メリズモ」を使う意図などなく、単純に「アドナイが『男』と『女』という2つの性のありようを創造された」と言いたかったのでしょう。

しかし、ヘブライ語に「メリズモ」という表現技法があるがゆえに、創世記1:27には、「アドナイが、『男』と『女』とその間の全てのグラデーションの中にある性のありようを創造された」と解釈されうる道が開かれています。

アドナイの御言葉は、人間の思いをはるかに超えて豊かだと思わされます。ハレルヤ!

日本バプテスト東熊本キリスト教会
三上充

発行所/(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人/岡成也 編集人/因幡 亮治
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

2019年度基本聖句

マタイによる福音書 22章39節
隣人を自分のように愛しなさい。